

八月六日

十時大学にイー・アイ・エムの役員二名来訪。ステンレスを扱わせてたら日本一の自負があるようだ。高橋工業と上手に附合ってくれば良いのだけれど。ともあれ霊園の仕事は高橋工業を頭にする事だけは伝えた。王国社の山岸さんより室内の連載だった設計ノートを本にしましょうとの申し出にそうしましょうの返事をする。六〇回まとめて読み直してみるにママア面白く書いていた。が、少し量が多過ぎるのではないかな。夕方世田谷に戻る。地下の連中も少し疲れ気味のようだから休ませた方が良くも知れない。

八月七日

朝六時半起床。何日か振りに屋上に上る。たった数日手を掛けないいたら雑草がアツという間に生い茂っていた。折角だから雑草雑草と片付けずに、固有の名前を知ろうと考えた。典型的な、いかにも雑草の名は解らず。図鑑と呼べる程の植物図鑑が家には無い。えのころぐさ(ねこじやらし)めひしば、くらいしか解らない。全く、どうしようもネエな。俺の植物愛好家振りはおおまつよいぐさは夜咲いているのだな、朝咲いているように見えるのは夜の名残りで、一度咲いた草はしおれて二度と咲かないらしい。あきめひしばという奴もいるな。今日は夜中に上にあがつて、おおまつよいぐさが本当に夜中に咲いているか確認してみよう。

ウチの夜はグツタリ咲かずに眠ってるような気がする。ゲートの植物の基本的な系統への分析振りと比較すれば、なんと私は凡人なんだろうというのが歴然とする。ところで現代の植物学というのはどうなっているんだろうか。午後グランドフロアー(一階の地べた)に打合わせテーブル設置。十四時住宅建築編集スタッフ、海光氏来地下室。打合わせ少々。彼等は明日気仙沼の高橋工業を取材に行く予定との事。海光は考えるに私と鈴木さんの内弟子みたいな建築家だから彼がめげずに頑張っている事は嬉しいのだ。町場で汗にまみれて育っているのだろう。願うらくはフランスでロマネスク建築に接して感動した事などを静かに思い起こしてくれたらと願うばかりである。アンリ・フォションの著作を深く読み込んでいた海光を僕はよく覚えている。宮崎現代っ子センターの藤野忠利さんより便りいただく。相変わらずお元気のように何よりだ。